

健闘！江陵高校バドミントン部 全道高体連(函館)

団体男子：全道3位 団体女子：全道ベスト8
男子ダブルス：全道3位 男子シングルス：全道3位

(15) 2019年(令和元年)6月13日(木曜日)

(第3種郵便物認可)

十 勝 毎 日 新 聞

スポーツ

かちまいスポーツ

全道高体連

江陵男子3位

バドミントン

第1白は男女の団体戦を行った。北海道プロック男子は、昨年十勝勢として38年ぶりに全道優勝を果たした帯大谷(上山昇大主将)3年、関根陸、佐々木蓮太、清水誠以上2年、池田侖輝、宇佐見慈、砂原泰斗以上1年)が決勝で旭川実に2-3で惜敗した。2連覇はならず、南、北プロック各優勝校のみに与えられる全国高校総体(イン

男女揃って全道で健闘！

男子団体 第3位

女子団体 ベスト8

女子の江陵・志賀友梨香主将(3年)の話。1勝して第1シードの深川西と対戦できたのは良かった。初戦はみんなが一つの気持ちになり攻められた。江陵は2年生5人だけになるが、来年もこの場に来てトップレベルの選手と戦って勝ってほしい。

気持ちが一つに

○：第1シードの旭川実との準決勝。江陵男子は陣を組み、島尻慎悟主将(3年)が「全員で攻める気持ちを忘れずに頑張ろう」と声を掛けた。シャトルを簡単には上げず低く速く攻めてくる相手に対して、守りに奔走しながらも、これまでの戦い通りドロップやカットに逃げないでスマッシュを打つ闘志を随所で見せた。2年生の6人が江陵の最後の代となる。島尻主将は「まずは全道大会の出場を目指して」と話した。

ターハイ、8月1〜5日・熊本に1歩届かなかった。江陵は準決勝で旭川実に敗れて3位、帯柏葉は準々決勝で敗退した。女子は帯南商と帯大谷が3位。江陵は初戦を突破したものの、準々決勝で、準優勝した深川西に敗れた。北海道プロックは旭川実が2年ぶり10度目のアベック優勝を果たした。男子は2年ぶり15度目、女子は2年ぶり22度目。同校女子の澤沼首里(1年)帯一中出)が全3試合に出場し2勝を挙げ、優勝に貢献した。南北海道プロックの男子は札幌龍谷が3年ぶり2度目、女子はとわの森三愛(江別)が6年連続11度目の頂点。男子の札幌第一は1回戦で敗退した。(北雅貴、金野和彦)

闘志が随所に

江陵男子

悔しい敗戦に涙あと1勝かなわず

島尻・山口組

○：全国へあと1勝だった。準決勝の試合後に涙を流し、タオルで顔を覆った江陵の島尻慎悟主将(3年)は「悔しいの一言」と声を絞り出した。

左腕から繰り出す長身の山口吏玖のスマッシュや島尻主将の鋭い動きで第2シ

あと1勝で全国へ… 準決勝惜敗

男子複 島尻・山口 ペア

男子単 山口 吏玖

記録の速報は kachimai.mobi
 写真がほしい▶0120-25-9410



【北海道プロック男子個人戦ダブルス・準決勝】前衛でスピード豊かにフルーする江陵の島尻慎悟(手前)。ペアの山口吏玖の左腕から繰り出すスマッシュも威力があった

ードに必戦。山口の後衛から攻撃で甘い返球を誘い、武器を發揮し、第1ゲームの攻撃で甘い返球を誘い、武器を發揮し、第1ゲーム



4強入りに「悔いなし」山口

ネット際へのヘアピンを返したシャトルがコートの外に落ちた瞬間、江陵の山口吏玖は肩を落とした。前日のダブルスに続き、シングルスもインターハイにわずかに届かなかった。第3シードらしく2試合を少ない失点に抑えて堂々と勝ち上がった。左腕から繰り出す長身を生かしたスマッシュやドライブなど好調な攻撃を武器に準決勝へ。長所を随所に出す場面もあったが、相手のスピードのある攻めに「押されて守りが全然できなかった」と淡々と振り返った。1年生から団体戦でトップシングルスを務めた。当初は結果を残せずに競技をやめようかと思っていたが踏みとどまり、「一番きつかった」と話すタッシュなど話

は終盤までリード。ただドライブの速い相手に徐々に押される場面が増えた。島尻は高校卒業後、美容師を目指し専門学校に進学する。バドミントンには部活をやっている以上、個人の戦いに見えて団体競技。仲間やチームワークの大切さを学べた。今後は生かす。山口は進路は未定だが競技の続行を希望している。(南) 北海道プロック決勝と管内関係分

【北海道プロック男子個人戦シングルス・準々決勝】江陵の山口吏玖が左腕から威力のあるスマッシュを繰り出す。シード選手らしく快勝した

【男子】
 ▲北海道▽個人戦ダブルス
 △1回戦 佐々木蓮太 和木翔樹・清水誠 藤本侑希(帯大谷) 2-0 (名寄産)